

保護者の皆様

札幌市立発寒小学校
校長 高橋 直之

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

今春に実施されました標記調査の結果につきまして、個人懇談の中で該当学年の6年生に個票を配付し、現状と今後の取組について共有させていただきました。この度校内での分析を終え、本校全体の児童の課題や改善の方向について下記のとおりまとめましたので、お知らせいたします。

【全国の平均正答率と比較して、以下の基準でお伝えします。】

- ・ +3.1ポイント以上 ⇒ △「上回っている」
- ・ +3.0ポイントの範囲内で全国平均以上 ⇒ ◇「ほぼ同程度であるが、やや上回る」
- ・ ±1.0ポイントの範囲内で全国平均と同じ ⇒ 「ほぼ同程度」
- ・ -3.0ポイントの範囲内で全国平均以下 ⇒ ◆「ほぼ同程度であるが、やや下回る」
- ・ -3.1ポイント以下 ⇒ ▼「下回っている」

小学校 国語

本校の概要

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」
◇ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「情報の扱い方に関する事項」
◆ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- 「話すこと・聞くこと」
△ 全国平均を上回っている。
- 「書くこと」
◇ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「読むこと」
◇ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

- 複数の情報を比較・関連付けながら、必要な情報を適切に整理して考えること。
- 目的や意図に応じて、自分の考えや理由を、根拠を明確にしながら文章で表現すること。
- 書く内容の中心を明確にし、段落相互の関係を意識して文章全体を構成すること。
- 文章と図表など複数の資料を結び付けて読み取り、必要な情報を適切に活用すること。

改善の方向

- 各教科において、文章・図表・資料を比較しながら必要な情報を整理し、自分の考えを説明する学習活動を充実させる。
- 根拠を明確にして書く活動を計画的に取り入れ、理由や考えを論理的に表現する力を育成する。
- 書く前に構成を考えたり、推敲したりする活動を継続的に取り入れ、相手や目的を意識した文章を書く力を伸ばす。
- 対話的な学習を通して、複数の資料を関連付けながら考えを深める活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

今回の結果では、国語は全体として全国平均を上回る結果となりました。特に「話すこと・聞くこと」は全国平均を4ポイント近く上回っています。日常の授業や委員会活動などで対話を取り入れ、大切なことを落とさずに話したり聞いたりできる子が育っており、本校の強みであると考えられます。一方で、「情報の扱い方に関する事項」は全国平均と同程度であるがやや下回っており、複数の情報を関連付けて考えたり、根拠を整理して記述したりする力については、今後も重点的な指導が必要です。

小学校 算数

本校の概要

- 「数と計算」
△全国平均を上回っている。
- 「図形」
△全国平均を上回っている。
- 「測定」
◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「変化と関係」
△全国平均を上回っている。
- 「データの活用」
◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

今回の調査における課題

- 示された資料から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を式に表して問題を解決すること。
- 表やグラフ、割合など複数の情報を関連付けながら、数学的な根拠を基に判断すること。
- 問題解決の過程や考え方を、式・図・言葉を関連付けながら論理的に説明すること。
- 日常生活の場면을数学的に捉え、数量の変化や関係性を考察し、自分の考えを記述すること。

改善の方向

- 日常生活の問題場面を取り上げ、必要な情報を整理しながら立式する活動を充実させる。
- 表・グラフ・図・式を関連付けて考える学習を継続的に行い、データを根拠として判断する力を育成する。
- 問題解決の過程を友達と説明し合い、その内容を文章や式にまとめる活動を充実させる。
- 自分の考えを根拠とともに説明する場面を各単元で意図的に設定し、数学的な表現力の向上を図る。

算数は全体として全国平均を上回る結果となり、基礎的・基本的な知識・技能の定着が見られます。これは、御家庭と協力して毎日宿題を粘り強く行えていることの表れです。一方で、資料を読み取り、その内容を根拠として考察したり、問題解決の過程を説明したりする問題では改善の余地があります。今後は、答えを求めるだけでなく、「なぜそう考えたのか」を説明する学習活動や、表・グラフ・式を関連付けて考える授業を充実させることで、思考力・判断力・表現力の一層の向上を図ることを目指します。

問題形式

本校の概要

- ・記述式については、選択式・短答式と比較すると正答率が低く、改善の余地が見られる。途中まで考え方は捉えているものの、根拠や理由を十分に記述できず、部分点にとどまる解答が見られた。
- ・問題の条件を正しく読み取れていても、考えを論理的に表現する段階で誤答となる傾向が見られる。

今回の調査における課題

- 問題文や資料から必要な情報を整理し、根拠を明確にして順序立てて説明すること。
- 自分の考えを、相手に分かりやすく伝えるように文章で表現すること。
- 条件を最後まで確認し、見直しを行いながら粘り強く取り組むこと。
- 問題解決の過程や考え方を、式・図・言葉を関連付けて説明すること。

改善の方向

- 各教科において、自分の考えや理由を説明する活動を継続的に取り入れ、記述する機会を充実させる。
- ペアやグループで互いの考えを説明し合い、多様な考え方を比較・検討する学習活動を充実させる。
- 「答えを書く」だけでなく、「なぜそう考えたのか」を記述することを日常の授業で習慣化する。
- 解答後に見直しを行う時間を確保し、条件の確認や記述内容を振り返る活動を継続する。

質問紙調査

自分自身・他者との関わりに関すること

- △自分と違う意見について考えるのは楽しい。
- △自分には、よいところがある。
- △困りごとや不安がある時、先生等に相談できる。
- △いじめは、どんな理由があってもいけない。
- ◆学級では、人と違う意見を言っても否定されない。

生活に関すること

- ◇毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- ◆毎日、同じくらいの時刻に起きている。

学習に関すること

- △英語の勉強は好き。
- △英語の勉強が得意。
- △学級会で話し合い、互いの意見を生かして解決方法を決める。
- ▼算数の勉強は好き。
- ▼算数の授業内容はよく分かる。

本校の概要

- △学校生活に対する満足感や、教師との関係について肯定的に回答した児童が多く、安心して学ぶことのできる学校づくりが進められている。
- △学習に対する意欲や「授業は分かりやすい」と感じている児童の割合は全国平均を上回っている。
- ◆一方で、家庭学習の時間や読書習慣については個人差が見られ、継続的な学習習慣の定着には改善の余地が見られる。
- ◆ICT 機器については授業で活用されている一方で、調べた情報を比較・分析したり、考えをまとめたりする活用場面をさらに充実させる必要がある。

今回の調査における課題

- 家庭学習の時間や学習習慣に個人差が見られ、学習内容の定着に影響していること。
- 自分の考えを深めたり、異なる考えを取り入れたりしながら学ぶ機会をさらに充実させること。
- 読書習慣や家庭での学習環境を整え、学びを継続する力を育成すること。
- ICT を情報収集だけでなく、情報の整理・分析や協働的な学習に活用すること。問題文や資料から必要な情報を整理し、根拠を明確にして順序立てて説明すること。

改善の方向

- 家庭と連携し、学年の発達段階に応じた家庭学習の習慣化を図る。
- 対話的な学習を充実させ、自分の考えを説明したり、友達の考えを基に考えを深めたりする授業づくりを推進する。
- 読書活動や調べ学習を通して、多様な情報に触れ、自ら学ぶ態度を育成する。
- ICT を効果的に活用し、資料を比較・分析したり、協働的に課題を解決したりする学習活動を充実させる。

本校は、自己肯定感や規範意識が高く、異なる考えを受け入れる素地が育っています。また、英語への好意的な受け止めが見られ、自信をもって学んでいます。浮かび上がった課題については、はっさむプラスワンやはつつタイムの取組、さくら図書館と連携した読書活動などを引き続き継続し、充実した習慣付けを行っています。また、算数の平均正答率が全国平均を上回っているにも関わらず、得意意識や好感が低いところは、「分かった」「自分の考えが生かされた」といった実感がもてるような算数の授業を行い改善していきます。